

日田市内河川におけるアユ生育状況等調査(R1年5月13~14日実施分)結果表

調査箇所		調査結果	ハミ跡等の写真				河川毎の特徴傾向等
大山川	① 大宮沈下橋下流	①下流左岸の瀬部分、10%以下。 ②中流全域、③上流右岸の比較的流れが少ない部分で5%程度。 ・オイカワ等の小魚の生息が減少した印象。 ・解禁前としてはハミアトの数は非常に少ない。 ・よどみ部分に石を覆う堆積物(シルト)が多い印象。	③上流右岸	②中流中央	①下流瀬	堆積物(上流よどみ)	●解禁前の状況としては、本調査を開始したH26からみても、過去最悪の状況である。写真を見ての通りだが、ハミアトが確認できる箇所が非常に少なく、やっと一つのハミアトを探すのが困難なくらいであった。特筆すべきは、よどみ部分でみられる、石表面を分厚く覆う堆積物と、ミズワタ状の長く伸びた藻類である。これが、他の河川と比較して、また例年の大山川と比較しても非常に多かった印象。後日、大山川3箇所の調査地点で、堆積物を採取し、北部水産グループに同定を依頼したところ、「ミズワタクチビルケイソウ(以下、クチビルケイソウ)」と呼ばれる外来の藻類であることが分かった。クチビルケイソウは、近年では全国的に発生しており、不漁の原因の一つになるのではないかと報告されているものである。本種が石表面を分厚く覆うことで、鮎の餌となるラン藻類の生育が阻害され、餌環境が悪化した結果、食べる餌がなく、ハミアトが見られない状況になったのではないかと推測できる。本種発生までのメカニズムは明らかになっていないが、解禁前に降雨が極端に少なかったことや、例年と比較してオイカワ等の小魚の姿も少ないことなど、関係があるかもしれない。クチビルケイソウは、高水温に弱く、夏場には枯れて消失することも報告されていることから、今後の観察を続けたい。
	② 榎瀬橋下流	①岩盤より下流中央部、②岩盤部分はいずれも、まばらにハミアトが確認できる程度で、ごくわずか。 ③堰より上流部分、堰のすぐ上にハミアトが集中しており、30%程度確認できたが、例年に比べると少ない。 ・全体的にハミアトは小さい。 ・下流、流れの弱い部分に堆積物多し。	③堰上流	②岩盤部分	②岩盤より下流	堆積物(下流)	
	③ 旧大山振興局裏	①~④全体として、ぼつぼつと少しだけハミアトが確認できる程度。 ③瀬の上部分で30~40尾程度の群れあり。 ・岸辺にクチビルケイソウ(ミズワタ状の堆積物)多し。	①上流左岸	④上流右岸	②中流中央	②クチビルケイソウ(左岸際)	
	④ 竹の首沈橋付近	①下流、堰の下は7か所くらい、まばらにハミアトあり。 ②橋の直下から堰の手前、よどみ部分ではほぼ確認できず。橋より上流部はややハミアトがあるが、全体的に少なく、③右岸部のよどみではまばら。④中央部の流心部分で10%以下のハミアトがようやく確認できた。 ・よどみ部分にクチビルケイソウが非常に多い。	④上流中央(流心)	④上流中央	①下流堰の下	②クチビルケイソウ(橋直下よどみ)	
	⑤ 松原ダム直下	①下流部中央、瀬の白泡部分にわずかにハミアトあり。 ②中流左岸、岩の間で流れが急に早くなるポイントに少しだけハミアトあり。 ③上流部、流れが緩やかなところで鯉やウグイ等の大型魚が生息。鮎の姿なし。 ・岸辺にクチビルケイソウ多し。 ・緑藻多し。	②中流左岸	②緑藻(橋のやや上流)	クチビルケイソウ(岸辺)	②クチビルケイソウ(岸辺)	
赤石川	赤石川下流	①上~下流中央部、岩の間や流れが速い部分では20% ②右岸部、流れがゆるい部分ではハミアト少 ・目視確認18cm以上 ・脂鱗はカットされていたため、陸封鮎である。	①中流流心	①中流流心			●松原ダムの陸封鮎試験放流河川。大山川とは異なり、石を覆うクチビルケイソウのような藻類も、堆積物もなく、河川環境は良好な印象である。またハミアトの割合も比較的高く、しっかりと鮎が生息できている印象であった。サイズも18cm前後のものを目視確認できており、陸封鮎にのみついていた標識(脂七の切除)鮎であったことから、河川放流後も陸封鮎が生きてきていることの裏付けとなった。 ●ただし、縄張りを持っているような分布ではなく、群れ鮎のような分布状況であり、釣りによる影響が出るか不明である。
	赤石川中流	①堰の下流部分全域で10%程度 ②堰の上流部分、瀬の白泡の上で20%以上 ・全体的にハミアトは小さい。	①下流流心				⇒5/17、赤石川において3名の組合員による試釣りを実施したが、残念な通り釣果は非常に悪く、1日経って下流にて2尾のみという結果に終わった。水温が低いせい、水量が少ないせい、もしくは陸封鮎の性質によるものか、原因は不明だが、そこに確実に鮎が生息しているが釣れない、という状況が解禁当初は続いた。引き続きアンケート調査にて放流効果を検証する。
	大山ダム直下	①下流瀬部分、ハミアトは少ないが20cmの鮎を目視確認。 ②上流部分では水深があり、流れがやや早い部分で20%。 ・上流では、3~5尾ずつくらい、合計20尾ほど目視できた。 ・サイズは18cm程度。	②上流瀬(流心)	②上流瀬	②上流瀬	①下流瀬	
玖珠川	天ヶ瀬温泉街下流	No Image ・流心部、水流で削られた丸石に30%程度のハミアトあり。 ・その他、流れが弱い部分はハミアトなし。 ・クチビルケイソウは多少あるが、大山川ほどではない。	流心部	流心部	流心部		●大山川と比較して、玖珠川はクチビルケイソウのような堆積物はあまり見られず、ハミアトの状況は上流域にいくに従って良好な状況が観察された。ただし、下流域(大山川との合流点のすぐ上)の状況は決して良好とはいえず、大山川ほどではないがクチビルケイソウもあったことから、分布が玖珠川上流に集中していることが考えられる。
	⑤ 天ヶ瀬温泉街	①下流部右岸~中央瀬、白泡ポイントで20~30%。ほぼ全面にハミアトがあり、良好。 ②上流橋脚付近、下流に比べると少ないがハミアトあり。 【水温19.5℃】	②上流橋脚付近	①下流右岸瀬	①下流右岸瀬	①下流右岸	
	⑥ 東深中裏	岸辺以外は全体的にハミアトあり。全体で10%程度。 ①~③各所、瀬の付近で30%以上。 ・餌となる藻類がびっしり。 ・鮎の生息環境としての状態は非常に良い。	③上流瀬	③上流瀬	②中流中央瀬	①下流中央瀬	
	⑦ 小瀬橋上流	①~③、瀬の少し手前の白波のあるところで10%程度。 ・全体的にハミアトは少ない。 ・上流域は緑藻多し。 ・岸辺にややクチビルケイソウあり。	③上流瀬	③上流瀬	①右岸下流瀬	クチビルケイソウ(右岸際)	
花月川	⑧ 御幸橋下流調査 ・ハミアトが非常に多い。 ・流れの早い部分は30%強。他は無し。 ・玉石多し。 ・水温は高い。その影響か、個体サイズは大きめ。 ・夏にかけて水温が高くなりすぎる可能性があり、シーズン後半、鮎がバテるかも。	上流流心	中流流心	下流流心		●相変わらず、土砂の堆積により水位が低く、浅瀬が連続しているが、ハミアトの状況は非常に良い。他の河川と異なり、玉石上の浮石が多く存在しているためか、ハミアトの割合としては最も高かった。浅いため水温も上がりやすいため、夏場の高水温時期にどう影響があるか。	
高瀬川	⑩ 琴平温泉 ①瀬の下流、瀬部分に50尾程度の群れが3つ。陸からも目視可能。サイズは小。 ②瀬の上流、右岸部に15%程度のハミアトあり。左岸は流れがよどみ、堆積物が石を覆う。	②上流右岸	②上流右岸	①堆積物(上流左岸)		●本調査箇所は、不漁の傾向が強い年でも比較的多くのハミアトが確認できる箇所であるが、大山川に比べるとハミアトが多い程度で、そこまでハミアトが多いという感じではない。高瀬川全体の状況は本調査では掘っていない。	
三隈川	⑪ TDK裏付近 ①左岸部下流でややハミアトあり。 ②右岸部は流れが強すぎてハミアトはほぼなし。 ③左岸上流で10%弱のハミアトあり。	③上流左岸	③上流左岸	①下流左岸	①下流左岸	●ハミアトが少ない状況であるが、解禁前の状況としては例年通りといった印象(本調査箇所は三隈川下流部にあたるため、解禁前は鮎の分布は上流に偏る傾向がある)。三隈川全体の状況は本調査では掘っていない。	

注：本結果は、調査実施日時におけるアユの生息状況を石の食み跡、個体の目視及び漁獲調査により推定したものであり、アユの漁獲量の増加を保証するものではありません。